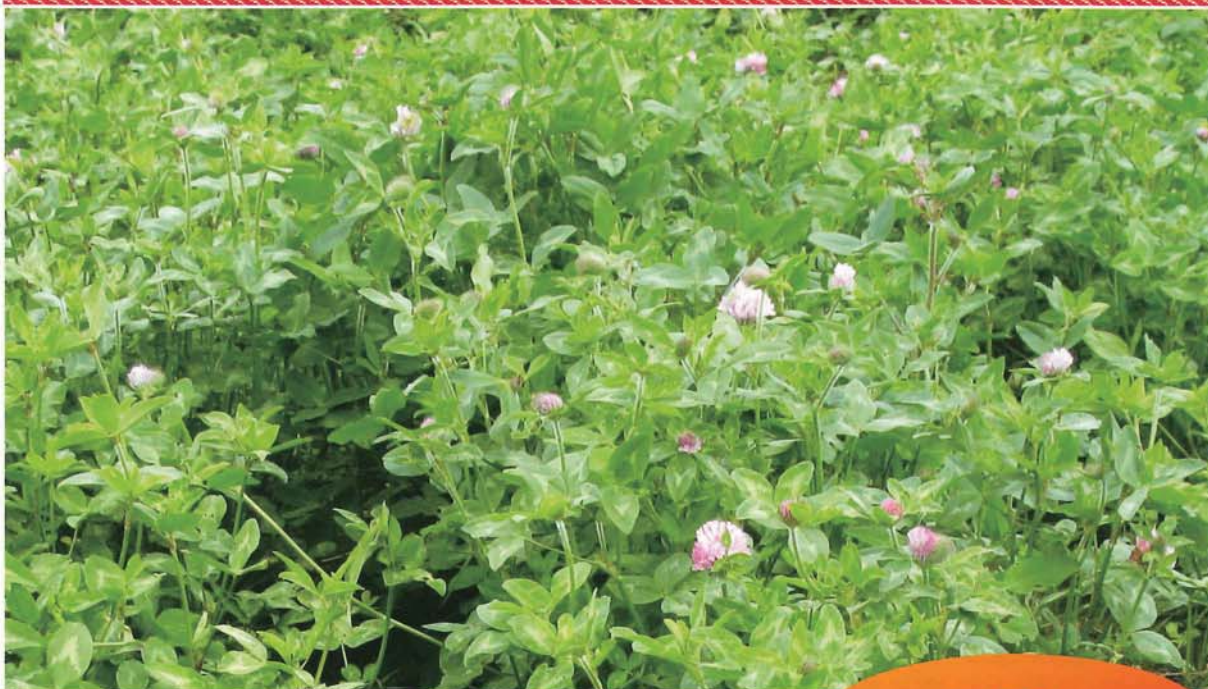


競合力の強いイネ科牧草との混播で長く維持できる

アカクローバ「リョクユウ」



早生

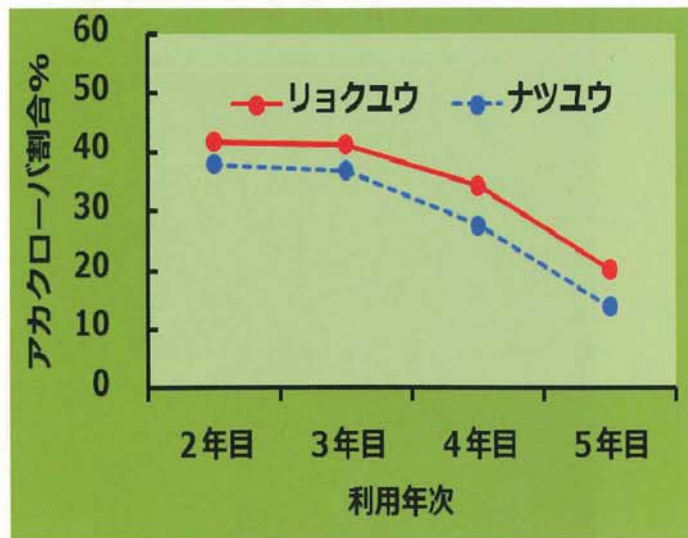
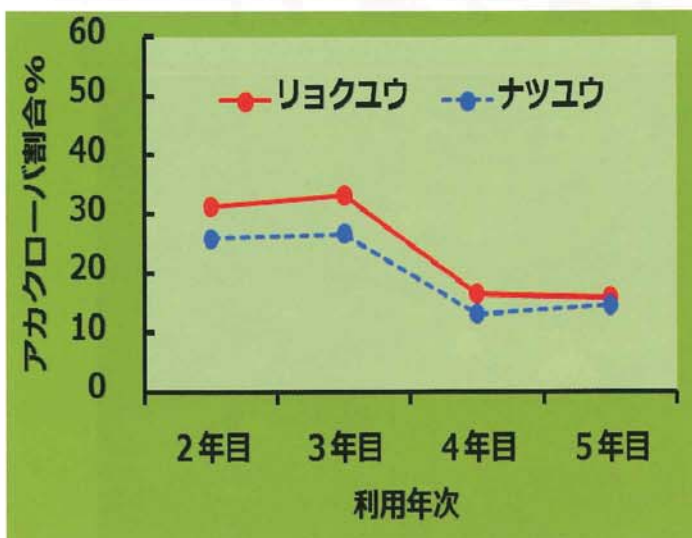


栽培適地：北海道全域および北東北地域

アカクローバは草地の栄養価を高め、窒素肥料の節減効果もあります。「リョクユウ」は北海道農業研究センターと北海道立総合研究機構根釧農業試験場との共同育成で、北海道および北東北地域を栽培適地とする持続性の高い採草用の品種です。

オーチャードグラスや極早生チモシーとの混播で持続性に優れる

アカクローバ新品种「リョクユウ」



オーチャードグラスとの混播

チモシー極早生品種との混播



「リョクユウ」は早生の2倍体で、持続性に優れ、オーチャードグラスや極早生チモシーと混播することで4, 5年目でもアカクローバ収量を既存品種より高く維持できます。

イネ科牧草種類別の各番草のマメ科率(%)

イネ科牧草種類	品種系統	1番草	2番草	3番草
オーチャードグラス	リョクユウ	23	29	29
	ナツユウ	20	27	25
極早生チモシー	リョクユウ	27	41	40
	ナツユウ	25	34	30
早生チモシー (根釧)	リョクユウ	21	42	-
	ナツユウ	19	28	-
早生チモシー (根釧を除く試験地)	リョクユウ	35	59	52
	ナツユウ	32	49	40

〈栽培上の留意点〉

競合力が強いいため、上の表のように2番草のマメ科率が早生チモシーとの組み合わせでは高くなります。そこで混播するイネ科牧草はオーチャードグラスおよび極早生チモシーを基本とします。但し、根釧地域においてはリョクユウの播種量を抑えることで、早生チモシーとの混播も可能です。それ以外の地域では早生チモシーとの混播品種には再生の穏やかな「ナツユウ」等の品種を利用して下さい。



NARO

【育成機関】 問い合わせ先:

農研機構 北海道農業研究センター 酪農研究領域 飼料作物グループ

TEL 011-857-9272 (直通)